

ICT を活用した英語指導改善と成果の伝達

兵庫県立宝塚西高等学校

教諭 上本 善之

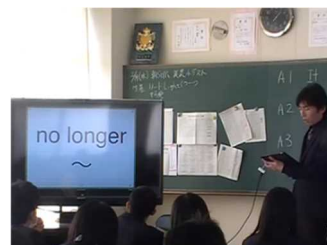
1 取組の内容・方法

(1) 教育の ICT 化

2012 年に第二世代型 iPad(iPad2)が発売されて以降、授業に各種 ICT 教材を取り入れてきた。上手くいったこともあれば、そうでないこともあるが、トータルで見れば ICT 教材の果たす役割はこれからの英語教育において不可欠であると考える。

(1) 1 iPad の活用

私が授業に iPad を導入した当初はまだ各県立高校に大型ディスプレイ(TV)が導入されておらず、授業での活用方法は限られていた。しかし、その約 1 年後に大型ディスプレイが導入されたことで、授業での活用の幅は驚くほど広がった。



- ・フラッシュカードアプリを活用した単語活動[Flashcards Deluxe]
- ・音声速度変換アプリを活用した様々な音読活動[Audipo]
- ・生徒の作品やパフォーマンスを撮影、画面に投影して共有[カメラアプリ]
- ・効果的な導入のためのプレゼンテーションスライド作成・投影[パワーポイント]
- ・授業のテーマを広げるための関連動画の紹介[Youtube・TED]

など、活用手段はアイデア次第で無限であり、他にも授業中に分からないことがあればその場でインターネットブラウザや辞書アプリで調べたものを画面に投影して生徒に見せる即応性もあり、授業には欠かすことのできないものになっている。しかし、教科書をノートアプリに取り込んでディスプレイに投影して授業をした時には、席が後ろの方の生徒から文字が小さくて見え辛いという指摘があったため止めた。教師の自己満足で ICT 教材を使うのではなく、あくまで生徒にとって効果的な場面でのみ ICT 教材を活用しなければならないことを学んだ。

(1) - 2 動画サービスの活用

言語習得には、自分の音声を自分で聞いて改善点を見出すことが有効である。魅力的な英語話者は、音声面だけでなく、表情や視線などの非言語的コミュニケーション能力も高い。各レッスンのまとめ活動として行ったポスタープレゼンテーションでは、生徒一人ひとりの動画を撮影し、Youtube の限定公開を利用して、各生徒が自分の



プレゼン動画を視聴できるようにした。各自がセルフリフレクションに取り組み、着実に音声・非音声、両方のコミュニケーション能力を着実に向上させた。

また、近年は動画による学習機会が増加し、各教育業者による動画サービスも充実している。私は2015年よりYoutubeを利用した反転授業に取り組んだ。授業での言語活動の時間を増やすためにYoutubeに文法解説動画をアップロードし、それを視聴してきた前提で音声活動をメインとした授業を実施した。その時にアップロードした文法解説動画は再利用可能なものなので、継続的に利用している。



(1) - 3 ライティング添削サービスの活用

令和元年度に卒業した本校41回生の指導では、1年次にエッセイライティング活動を行った。テーマを与え、書いたエッセイを添削し、グループで回し読みをして感想を書くというもので、一定の効果を得た。しかし、実施頻度を増やすと教員の手間が増えることが悩みであった。そこで2年次では、啓林館のスマートコレクションを導入した。生徒がパソコンでエッセイを書き、それを海外の採点者が添削、コメントをしてくれる。生徒に十分なライティングの機会を提供しつつ、教員の時間を削減できるという時間対効果の大きいサービスであり、また採点者のコメントが非常に丁寧で、一人ひとりに文法の間違いや文章校正のポイント、やる気を出させるようなポジティブなメッセージを返してくれる。したがって、単なるライティング活動ではなく、外国人と直接やりとりをする貴重なコミュニケーションの機会にもなる。指導をアウトソーシングすることに心理的抵抗のある先生方も少なくないと思うが、すべてを自分の手で行うことが必ずしも生徒にとって最良となるとは限らない。空いた時間を自らの指導力向上や授業準備に割り当てれば、生徒に対する教育効果を最大化することがで

コメント

That's a really nice paragraph! You have clearly stated your position on the matter with reasons to support your opinion. Urban areas as everyone knows offers services, entertainment, jobs, medical services and on and on in close proximity. It's well written. However, you made some grammatical mistakes in your paragraph. You made a spelling mistake in the third sentence of your paragraph. Be careful for the next time. You omitted a necessary preposition and a conjunction word in the same sentence. A problem of your paragraph is you didn't write any demerits of an urban area. It would have been great if you had written some necessary words in different sentences to express your thoughts properly. I think it's really important for you to focus on things such as spelling, punctuation, and grammar. No one's writing is free of error. Don't give up. Overall it's a super paragraph. You're really special.

ネイティブ添削者によるフィードバック。これほどのフィードバックを全員に行うのは物理的に難しい。

(2) 成果の伝達

上記 ITC を活用した取り組みや、私が蓄積した英語教育に関する知見や指導法については、校内外の教員と広く共有した。

(2) - 1 校内での情報共有

現任校に赴任した時点では、まだ ICT 教材が広く活用されていない状態であった。赴任後、まず大型ディスプレイの保管場所と設置台数を確認し、各フロアで自由に教員が使用できるように外国語科教員の協力を仰いで再配置した。翌年には、校内の先生方を対象に授業における ICT 教材活用講座を実施した。自由参加であったにも関わらず、多くの先生方が教科を問わず参加してくださり、これを機に、ディスプレイや iPad 等の ICT 教材を授業で活用される先生方も増えた。



(2) - 2 校外での情報共有

平成 28 年に英語教育推進リーダー育成研修に参加し、翌年の各地区における伝達研修の講師を務めさせていただいたことを契機に、いくつかの講演会やワークショップで ICT 教材活用法や英語指導法を数多くの先生方にお話しさせていただく機会を得た。



- ・平成 30 年 6 月 「英語を活用した授業研究」講師 主催：兵庫教育大学大学院
- ・平成 30 年 9 月 「英語 4 技能指導研究会」講師 主催：ベネッセコーポレーション
- ・平成 30 年 10 月 「チャレンジ留学講演会」講師 主催：兵庫県高等学校教育振興会
- ・平成 31 年 11 月 「兵庫県高等学校教育研究会英語部会丹有支部研究大会」講師
主催：兵庫県高等学校教育研究会英語部会
- ・平成 31 年 1 月 「兵庫県高等学校教育研究会英語部会研究大会」講師
主催：兵庫県高等学校教育研究会英語部会

各講演会やワークショップでは、ICT と英語指導法以外にも、私の信念である「効果的な動機付け」についても言及し、アンケートでも数多くの好意的なフィードバックをいただくことができた。また、指導の中で特に大きな効果のあった 3 つの活動については、「兵庫教育 令和元年 5 月号」に掲載していただいた。

2 取組の成果

(1) ICT 活用について

ICT を活用した取り組みにより、生徒に効果的なフィードバックを行うことができた。右図は、2018 年 7 月に受験した GTEC と、半年後の 2019 年 1 月に受験した GTEC スピーキングスコアの比較である。劇的な伸びであるが、これは活動そのものの効果だけで

①校内平均スコア&グレード

実施回	今年		前年
	18年度No. 3 A	18年度No. 1 A	
人数	39	39	
スコア	150.1	118.2	
グレード	6	4	

スコア
7
6
5
4
3
2
1

①校内平均スコア&グレード
この表は、2018年7月のGTECスピーキングスコアの平均値と、2019年1月のGTECスピーキングスコアの平均値を比較したものである。スコアの向上が確認できる。また、グレードも4から6へと向上していることがわかる。

②スピーキングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	今年		前年	
		人数	割合	人数	割合
7	170	5	5	0	0
6	150~	18	23	0	0
5	130~	11	34	3	3
4	110~	4	38	31	34
3	90~	0	38	5	39
2	70~	0	38	0	39
1	0~	0	38	0	39

はなく、活動を通して「動機付け」された生徒が、自ら努力を欠かさなかった結果であろう。生徒のスピーキングの伸びがよく分かる動画を右記の URL、または QR コードからご覧いただきたい。反復とセルフリフレクションの効果を実感していただけるだろう。(こうして指導の成果を直接確認していただくことができるのも、動画サービスの利点の一つである)



<https://youtu.be/ZhBXzkucXSg>

またライティングについても顕著な伸びを確認できた。以下は2年次の3学期に、英検準1級と2級を取得した生徒のそれぞれのスコアである。

準1級						2級					
英検 CSEスコア 合格基準スコア	総合スコア	Reading	Listening	Writing	Speaking	英検 CSEスコア 合格基準スコア	総合スコア	Reading	Listening	Writing	Speaking
	2460 (3000)	566 (750)	570 (750)	750 (750)	574 (750)		2127 (2000)	490 (650)	476 (650)	650 (650)	511 (650)

両者ともライティングのスコアが突出して高い。日本人英語学習者の傾向としてエッセイライティングを苦手とする受験者が多いため、相対的にスコアが高くなっている可能性もあるが、他にも多くの生徒がライティングセクションで高得点を得て合格していた。

もちろん、スピーキングやライティングは ICT を活用した取り組み以外にも様々な活動を行ってきたため、一概に ICT 活用の成果であるとは言えないが、私の実感としては、間違いなく効果はあったと言える。

(2) 成果の伝達について

私が赴任した5年前、本校の英語科教員の iPad 等の ICT 機材の使用率はほぼ0%であったが、現在では8割以上の教員が iPad、またはそれに準ずる機材を利用して授業を行っている。令和2年度には各教室にプロジェクターが導入されたが、本校の教員はそれらの機材もスムーズに活用できているようである。

また、各地での講演会終了後には、本校にわざわざ電話をいただき、使用教材や指導法の質問をされることも多々あった。微力ではあるが、本校の ICT 化、および本県の英語教育の発展に寄与できたものと自負している。

3 課題及び今後の取組の方向

1 - (1) でも触れたが、ICT は必ずしも万能ではない。また、教師の指導力不足を補ってくれる存在でもない。英語力、指導力、求心力、人間力、そういったものが備わっていなければ、魅力的な教師になることはできないと思う。兵庫県高校生英語ディベートコンテスト運営委員会事務局を四年間務めさせていただいたが、大会に参加してくる高校生を見て思うことは、「学びに対して強く動機付けされている生徒が一番伸びる」ということである。教師として、これからも生徒の知的好奇心を刺激し、自立した学習者を育てていきたい。